



前原 可菜

Maehara Kana

自分自身の経験をメッセージに

今年度、JA全農主催の学生作文コンクール「酪農の夢」で、中国酪農農科大学校で酪農を学ぶ前原可菜さんが最優秀賞を受賞しました。「閉じこもっている人は、自分の中で納得できる段階までいけたら、一度外の世界に触れてほしい」。前原さんは作文に、自身の経験から生まれた思いを込めました。前原さんは中学生の頃に不登校となり、高校は通信制高校に進学。外に出ない生活を送っていました。自分を変えたいという思いを抱えながらも踏み出せず、搾乳体験ができるという知り、動物が好きだったこともあり行ってみることに。それが転機となりました。

酪農との出会い

初めての搾乳は、前原さんの心に強く響きました。「何もできなかった自分が、牛乳を搾ることができた。これなら私にもできるといいう、確信に近い気持ちになりました」と話します。また、その牧場のSNSで目にした『牛は私の心の鏡』という投稿も、進路を決めるきっかけになりました。「自分を客観的に見られるようになれば、進むべき道が見えるかもしれない」と考え、酪農の世界を志します。

「人と話すことに慣れていないし、作業は覚えられないし、人に迷惑をかけてばかりだし、最初には本当につらかったですね」と入学直後を振り返る前原さん。しかし、「家族や同級生、先生方が支えてくれたから頑張れました。今では落ち込むことも少なくなり、物事を多面的に捉えられるようになりました」と自身の成長を感じています。

真 庭 人

MANI WABITO

実習で機械での搾乳をする様子



「酪農の夢」コンクールで発表する前原さん



前原 可菜さん(蒜山西茅部)

岡山市出身。公益財団法人中国四国酪農農科大学校酪農科1年生。読書や音楽・アニメ鑑賞が趣味。休日はよくドライブをしており、晴れた日の蒜山でのドライブが好き。牛の好きなところは鼻。特に子牛のピンク色の鼻がかわいくて好き。

観光牧場で働くことが目標。「牛をよく観察し、人とのコミュニケーションを大切にする酪農従事者になりたいです」と、前を見据えています。

